

第1回 羽生市立学校適正規模審議会

会 議 録

日 時	令和元年12月20日(金) 午後1時30分(会議終了:午後3時05分)	
場 所	羽生市役所201会議室	
委員出欠	【出席】 佐藤委員、鳥海委員、福島委員、小島委員、松本委員、島田委員、大塚委員、山本委員、藤間委員、木村委員、蓮見委員、篠崎委員、井上委員、櫻井委員、宇都木委員 【欠席】 なし	
事務局等	川島学校教育部長、須永教育総務課長、矢野学校教育課長、横山教育総務課長補佐	
会議の内容	1 開会 2 委嘱状・任命書交付 3 教育長あいさつ 4 委員自己紹介 5 会長及び副会長の選出 6 議事 (1) 羽生市立学校適正規模審議会への諮問について (2) 羽生市立小中学校適正規模・適正配置に関する基本方針策定指針について (3) 小中学校の現状について ①小中学校の児童生徒数の推移について ②小中学校校舎、屋内運動場の改修及び維持管理について ③小中学校プール施設の現状と今後のあり方について(会議非公開) (4) その他 7 閉会	
会 議 録		
1 開会	司 会 (教育総務課 横山)	第1回羽生市立学校適正規模審議会を開会。 議事のうち(3)③は、未確定の意思決定情報を含むため、非公開とする。
2 委嘱状交付	学校教育部長	<委嘱状の交付>

		<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒数の推移及び推計 2045 年には、ピークの 1984 年より 65%減少する見込み。 ・適正規模・適正配置に関する教育委員会の基本的な考え方。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 望ましい学級数の維持 小学校で 1 学年 2 学級以上の学校は学級数を維持、1 学年 1 学級の学校は現在の学級数を下回らないよう、再編成を検討。 (2) 学校施設の集約 児童数の推移と学校の再編成の進捗にあわせ、過剰となった施設を廃止し、財政的負担を軽減。プール施設のあり方も検討。 (3) 義務教育学校の設置 将来的に学校を再編成し、義務教育学校を設置。 ・基本方針策定のスケジュール 令和 2 年度中に策定を予定したい。市民の理解を得るため、慎重かつ丁寧に進める。状況により策定期間が前後することもあり得る。
	佐藤会長	事務局の説明に対し、意見、質問を求めた。
	委員	適正規模審議会は、常設の審議会か、今回の諮問により新たに設置されたのか。
	事務局 (教育総務課長)	以前は中学校の統合等を審議していた。今回、近年の児童生徒数の減少を受け、新たに設置に至った。
	委員	今後羽生市が進める公共施設の統廃合の一環として、学校についても検討するのか。
	事務局 (教育総務課長)	市の施設統廃合と関係はしているが、学校施設は、単純に無くせば良いということではなく、子どもたちの教育にとって何が大事かということであり、統廃合ありきではない。
	委員	審議会規程の平成 20 年の改正内容は何か。

<p>(3)小中学校の現状について</p> <p>①小中学校の児童生徒数の推移について</p> <p>②羽生市立小中学校適正規模・適正配置に関する基本方針策定指針について</p>	事務局	市の組織改革による所管課名の改正である。
	委員	新郷地区の 2 つの小学校が別の中学校に行っていること、岩瀬小学校は中学校進学の際、西中学校と南中学校に分かれることを再考する編成も考えられるか。
	事務局 (教育総務課長)	小学校の再編成を、具体的にどのように行うかは、これからの審議で各委員から意見をいただき、考えていきたい。
	委員	地域のためということも審議に含められるか。
	事務局 (教育総務課長)	学校が持つ地域コミュニティーの中心という役割を無視する形で進めようとは考えていない。子どもたち、地域にとって総合的に一番良い形となるよう進めていきたい。
	佐藤会長	議事(3)「小中学校の現状」のうち、①と②について、事務局から説明を求めた。
	事務局 (教育総務課長)	<p>議事(3)①「小中学校の児童生徒数の推移」について説明。(資料4)</p> <p>[児童生徒数の推移] 現在はピーク時の 1984 年から 46.9%減少し、3,844 人。学校別にみると、文部科学省による小学校の望ましい学級数「1 学年 2 学級以上」を下回っている小学校が 5 校ある。</p> <p>[児童生徒数の将来推計] 令和 7 年までは、住民基本台帳により未就学児の人数を抽出。令和 12 年度以降は、「羽生市人口ビジョン」及び国立社会保障・人口問題研究所(社人研)による「日本の地域別将来推計人口を基に 2 通り算出。26 年後の令和 27 年には、人口ビジョン推計では 2,909 人、社人研推計では 2,527 人となり、今年度と比較し 24%から</p>

		<p>34%、1,000人近く減少すると予想される。</p> <p>[各学校別の推計]すでに複式学級がある村君小学校に加え、令和7年には三田ヶ谷小学校、令和27年には新郷第一小学校、新郷第二小学校で複式学級が発生する可能性がある。中学校は、将来各学年3学級程度になる見込み。</p> <p>[学校の小規模化に伴うメリット・デメリット]現在、小規模校ではそのメリットを生かし、特色ある教育を展開しているが、児童生徒数が減少し続けると、次第にデメリットが大きくなり、子どもたちの学習や学校生活に影響がでることが懸念される。</p> <p>議事(3)②「小中学校校舎、屋内運動場の改修及び維持管理」について説明。(資料5)</p> <p>校舎・屋内運動場は多くが建築後30年以上を経過しており、大規模改修を実施した校舎以外は、老朽化が著しい。厳しい財政状況の中で、修繕、工事を進めているが、それでも追いつかない状況。適正規模・適正配置の基本方針案の作成にあたっては、これら学校施設の現状と将来の維持管理についても考慮する必要がある。</p> <p>佐藤会長 事務局の説明に対し、意見、質問を求めた。</p> <p>委員 複式学級になる基準は。</p> <p>事務局 (教育総務課長) 2つの学年の児童生徒数が、小学校1年生を含む学級は8人、その他は16人を下回る場合、複式学級になる。</p> <p>委員 複式学級になると、良くないのか。</p> <p>事務局 (学校教育課長) 2つの学年が1つの教室で授業を行うことによる不都合が生じてしまうことがある。</p> <p>委員 小規模校の場合、学力の面ではどのようなメリッ</p>
--	--	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

		ト、デメリットがあるか。
	事務局 (学校教育課長)	メリットは、きめ細かい指導ができること、1人に対する指導時間が多くとれることなど。デメリットは、限られた人数での学びとなるため、発表力の向上等、多人数に対し不利であることなど。現時点で長所短所共に格段の差がついている訳ではない。
	委員	学校の統廃合を行うと、メリット、デメリットはどのように変わるか。
	事務局 (学校教育課長)	小規模校では子ども同士の交流が小単位になり、友達関係がうまくいかない時に、逃げ道がない。学力の面では、学校の規模により特段優位な差は出ていないが、小規模校では、1人の成績の上下が平均値の大きく現れる。小規模校は、多くの子どもが主役になることができるが、人数が少なくなりすぎるとデメリットが顕著になりやすい。
	委員	メリット、デメリットは、よく見て比べるとこちらの方が良い、良くないという見方であって、極端に違うということではなく、実はわずかばかりの違いという捉え方の方が良いかもしれない。
	事務局 (学校教育課長)	確かに、あえて比較した時に、そのように言える事項もあり、見る方向によって相反してしまうものでもある。
	委員	市内の学校を視察すると、小さな学校、比較的大きな学校共に、どちらが良いということではなく、子どもたちは学ぶことは違うが、それぞれ良い経験をしていると感じる。今回の審議も、どのような目的とするのかが大事になってくると思う。
	委員	現在の村君小学校の全児童数は60人だが、6年後には27人になってしまうとのこと。子どもたち

		<p>は仲良く生活しているが、大きな集団の中で活動ができるか心配。4年生5人のうち、女子は1人で、特に林間学校や修学旅行では教職員の配慮が必要。</p>
	委員	<p>現在の学校同士の交流はどのようなものがあるか。共同授業や小中学校間の活動はあるか。</p>
	事務局 (学校教育課長)	<p>川俣小学校と三田ヶ谷小学校でテレビ会議システムを使って、互いに情報発信している。共同授業は移動等の問題があり、なかなか難しい。小学校で授業研究会をする時は、その学校区の中学校の先生方が来て、授業の様子を見たりしている。</p>
	委員	<p>南中学校では、小学校のサマースクールで、生徒が学習の補助をしている。その他、吹奏楽部、合唱部が学区内の小学校の音楽会で演奏や合唱を披露している。職場体験では、小学校への希望者が多い。</p>
	委員	<p>小規模校のデメリットが多くなり、学校の統廃合をせざるを得ないという状況で(統廃合をする前提で)、どのような方法で進めたら良いかということ、この審議会で審議するのか。はっきり目的を示した方が、審議がきちんと進むと思う。</p>
	事務局 (教育総務課長)	<p>将来的な学校の再編成は避けられないと考えている。委員の知恵をいただき進めて行きたい。</p>
	委員	<p>羽生市内でも地域によって学校の統廃合に関して意識のバラつきがあり、審議会委員の中でも認識の差があると感じる。一番近い課題となるであろう村君小学校については、市民座談会にて6年後の児童数は27人になると言われた時、驚いたが、地域としては分かっていたこと。とはいえ、地域コミュニティの中で学校が担う役割を考えると、経済合理性だけで統廃合するということはなりにくい。現在のままということは難しいが、住民感情としては</p>

	委員	そこを何とかして欲しいという気持ちがあること 理解した上で、議論ができればありがたい。
	委員	保護者の立場としては、1 学年 1 学級の学校で子どもに何らかのトラブルがあると、クラス替え等の逃げ場がないため、学級数が増えると助かる。また、PTA 役員は学校規模に関わらず、それなりの人数が必要であり、小規模校は 1 人の保護者に対して役員が回ってくる回数が多くなる。登下校の見守りも十分ではないという感覚もあり、統廃合は、ありがたいとも思う。
	委員	子どもの人格の完成を目指すためには、個々に育てた方が良いか、集団で切磋琢磨して育てた方が良いかということ、この審議会で議論すれば良いと思う。学校を統廃合する時は、新たに学校を建てると地域の方は賛成するが、既存の学校に合併するとなると必ず反対が出る。また、学区の編成についても、わざわざ遠い学校まで通わなくてはならない現状があることも鑑み、議論すべきだと思う。
	事務局 (教育総務課長)	いただいた意見を踏まえ、地域のこと、学区のこと、人格形成のこと、PTA の関係等をきちんと議論し、委員の皆さんと一緒に考えていきたいと思う。
③小中学校プール 施設の現状と今後のあり方について	佐藤会長	議事(3)③については、会議を非公開とする。 <会議非公開>
(4)その他	佐藤会長	これより、会議を公開する。 議事(4)その他として、委員から、その他の意見を求めた。
	委員	三田ヶ谷小学校も児童数が少なく、地元の方も保護者も状況を分かっている。しかし、学校が無くな

		<p>ることはとても悲しいこと。小規模校同士の再編成は、いずれまた同じような状況になることが予想される。児童数の少ない学校を、多い学校に統合するということになれば、通学についての心配（保護者の送迎、スクールバスの運行）もでてくる。保護者は、ある程度の心構えはあると思っているが、その時が来たなら、デメリットがなるべく無くなるようにしたい。良い環境になるというところがきちんと打出せれば、理解を得られると思う。</p> <p>委員 地域としては、小学校は心の拠り所であり、残したいという気持ちがある。一方、羽生市が公共施設の統廃合を検討していく中で、公民館はどうなるのだろうという話もある。自治会では、生活の拠点となる場所が必要で、行政として地域コミュニティーを含めて考えていかないと、住民の意見調整は難しいと思う。</p> <p>委員 今後は、公共施設の維持に莫大な費用がかかるため、羽生市では、施設面積、建物数を減らし、維持管理費の負担を軽減していこうとしている。しかし、施設によって統廃合できるものと、できないものがあり、現在は、個別に具体的に整理をしている期間。行政として地域コミュニティーを崩壊させてはいけないという考えを持っており、様々な問題を整理し、計画を決めていこうと考えている。</p> <p>委員 次回の会議で方向性を決めることになるか。</p> <p>事務局 (教育総務課長) 次の会議では、プール施設の件については結論を出したいが、学校の再編成については、もっと時間をかけて議論していくことであり、2回目の会議ですべて決められることではないと考えている。基本方針策定は令和2年度末を予定しているが、議論の進捗状況によっては、審議会の会議の回数や、地域等の説明会の回数が増えることがある。</p>
--	--	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

7 閉会	委員	通学の問題や地域の問題などをよく考え、上手くいく方法があれば、統廃合をしないという選択肢は考えられるか。
	事務局 (教育総務課長)	児童生徒数の減少を想定し、最終的には市内の学校を義務教育学校にしていきたいという考え方があり、学校の再編成は避けられないと考えている。その中で、色々な問題をどう解決していくか、審議会で意見をいただきながら、羽生市として最善の基本方針をまとめたい。
	委員	審議会で、いつ、何をするかを決めていくことになるか。
	事務局 (教育総務課長)	今後議論する必要がある、委員、事務局共に考えていきたい。
	委員	小学校の再編成は、義務教育学校にするために、段階を踏むという理解で良いか。
	事務局 (教育総務課長)	その通りである。
	佐藤会長	本日の議事はすべて終了とする。 委員の皆様には、次回の会議までに、学校運営協議会や地元の会合などで学校の適正規模・適正配置についてお話しし、意見を聴いて次回の会議で発表していただきたい。
司 会	次回の審議会は令和2年2月7日 午前10時から開催する。場所は追って案内する。 第1回羽生市立学校適正規模審議会を閉会。	

【配付資料】

- 資料 1 羽生市立学校適正規模審議会委員名簿及び羽生市立学校適正規模審議会規程
 - 資料 2 諮問書
 - 資料 3 羽生市立小中学校適正規模・適正配置に関する基本方針策定指針
 - 資料 4 市内小中学校の児童生徒数の推移
 - 資料 5 小中学校施設概要及び建設・改修履歴一覧
 - 資料 6 小中学校プール施設稼働状況・維持管理経費一覧 非公開
- (当日配付) プール施設の現状と今後のあり方について 非公開

第2回 羽生市立学校適正規模審議会

会 議 録

日 時	令和2年2月7日（金） 午前10時（会議終了：午前11時25分）	
場 所	羽生市役所201会議室	
委員出欠	【出席】 佐藤委員、鳥海委員、福島委員、小島委員、松本委員、島田委員、大塚委員、山本委員、藤間委員、木村委員、蓮見委員、篠崎委員、井上委員、櫻井委員、宇都木委員 【欠席】 なし	
事務局等	秋本教育長、川島学校教育部長、須永教育総務課長、矢野学校教育課長、横山教育総務課長補佐	
会議の内容	1 開会 2 教育長あいさつ 3 会長あいさつ 4 議事 (1) 小中学校プール施設の今後のあり方について (答申の骨子案) 会議非公開 (2) 小中学校の再編成の考え方(案)について (3) その他 5 閉会	
会 議 録		
1 開会	司 会 (教育総務課 横山)	第2回羽生市立学校適正規模審議会を開会。 本日の議事のうち(1)については、未確定の意思決定情報を含むため、非公開とする。
2 教育長あいさつ	秋本教育長	<教育長 あいさつ>
3 会長あいさつ	佐藤会長	<会長 あいさつ>
		<教育長 公務により退席>

<p>4 議事</p> <p>(1) 小中学校プール施設の今後のあり方について(答申の骨子案)</p> <p>(2) 小学校の再編成の考え方(案)について</p>	<p>佐藤会長</p> <p>事務局 (教育総務課長)</p> <p>佐藤会長</p> <p>委員</p> <p>委員</p> <p>委員</p> <p>委員</p>	<p>議事(1)については、会議を非公開とする。</p> <p><会議非公開></p> <p>これより、会議を公開する。</p> <p>議事(2)「小学校の再編成の考え方(案)について」事務局の説明に先立ち、前回会議で各委員に依頼した、学校の適正規模・適正配置についての地元の意見の聴取について、発表を求めた。</p> <p>村君地区や三田ヶ谷地区は、なかなか住宅ができず人口が増えない。他県では学校の統廃合が始まっており、通学にスクールバスを運行している所もある。</p> <p>再編成する時には自分の子はいないのではないかということから、保護者達からは、活発な意見はない。意見が出るのは再編成の時期が決まってからか。</p> <p>児童数が少なく、役員の順が回るのが早いので、学校が大きくなれば役回りが薄まるのではないか。通学はバス送迎を希望し、保護者が送り迎えすることは避けたい。スポーツ少年団の少なくなっている状況は、学校を再編成すれば活発になっていくのではないか。</p> <p>統廃合よりも、岩瀬小学校で中学校の学区が西中学校、南中学校に分かれてしまうことの方が気になる</p>
-----------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	委員	<p>比較的大きな小学校では、自校の体制は当面維持されるという認識。再編成した場合、通学時間がどうなるか気になる。学校と地区との関係が気になるが、学校での教育水準や教育の質を第一に考えて動いていただきたい。</p>
	委員	<p>ここ1年で生まれた子どもの人数とその1歳上の子どもの人数に70人程の差がある。児童数減少の傾向が続くと、ますます学年単学級化が進む。義務教育を卒業するまでに社会順応性を育てることが難しくなる恐れがある。社会に出ると競争であり、このような部分をどのように捉えていくかも大事。羽生市の人口も減っていく見込みであり、学校の再編成等により、今の子どもたちが将来必要なものだけの負担で済むようにしておきたい。</p>
	委員	<p>子どもが少ないので学校の再編成自体はやむを得ないという考えが多く、むしろどのような形になるのか興味がある。</p>
	委員	<p>小中一貫校になれば、中学校に進学した時のギャップが少なく済んで良いのではないか。通学はスクールバスでの送迎になるのか。再編成により教職員数を減らすのではなく、学校あたりの人数を増やしていく考えを持ってほしい。小規模校の児童が急に大きな学校になってしまうと、それに適応できるのか心配。再編成によって学校が無くなることで、「地域」が薄れていき、良い結果にならないのでは。地域としては、「おらが町」という気持ちで子どもたちに接する大切さが失われていく一抹の寂しさ。児童に、学校再編成の説明と、アンケートを行ってはいかがか。</p>
	委員	<p>そういう時代に入ってきたという認識。中学校の統合が上手くいったのは、学校を新設したからであ</p>

		<p>り、既存校舎を利用する再編成は難しい部分もある。</p> <p>委員 既に組まれたシナリオに沿って、会議を進めるのではないか。国や県からの指示があり、市民を含む会議をしたということにすれば良いのではないか。再編成する場合、学区の見直しはあるのか。</p> <p>委員 スクールバスの運行や、通学路がどうなるのかに興味。再編成の具体案が示されれば、活発な意見が出てくるのではないか。</p> <p>委員 児童数が少ない地域では、このままで良いということは考えられない状況。再編成の具体案が示された時に、どのような意見がでるか、どのように意見が変わるかは、分からない。</p> <p>佐藤会長 事務局から説明を求めた。</p> <p>事務局 (教育総務課長) 委員からの報告で話のあった「シナリオ」は、ない。学校の適正規模・適正配置に関する国の手引はあるが、学校の統廃合等は、あくまで自治体の判断で行うことになる。羽生市では、児童生徒数が減少する状況を放置してはいけなく、今から考えていかなければ間に合わないということで始めた。</p> <p>事務局 (教育総務課長) 議事(2)「小学校の再編成の考え方(案)」について説明。(資料2) ・「学区」小学校を再編する際は、現在の中学校区内で行うことで、混乱が少なくなるのではと考える。しかし、岩瀬小学校で中学校区が分かれていること等についても今後話し合っていきたい。 ・「学校規模」子どもたちのためには一定規模の集団が必要であると考え、再編成後も小規模(1学年</p>
--	--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

		<p>1 学級) となるような再編成は行わない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校施設」再編成にあたり新たに建設せず、既存の校舎を活用する。小学校の再編成は、義務教育学校を設置するまでの一つの段階と考えている。 ・「通学」再編成となった場合の通学は、スクールバスを運行する等、個別に検討する。 ・「跡地利用」市の公共施設等総合管理計画を踏まえ、個別に検討する。 ・「適正規模・適正配置を進めることにより期待される効果」子どもたちが一定の集団の中で切磋琢磨し、社会に出て生きていく力を身に着けることができる。これが、学校の適正規模・適正配置を進めていくうえで、大切なことだと考えている。他、人間関係の固定化や序列化の防止、学校行事の効果的な実施、教職員の質の向上、緊急時の柔軟な対応、P T A活動の活性化等の効果が期待できる。 <p>佐藤会長 事務局の説明に対し、意見、質問を求めた。</p> <p>委員 学区については、中学校区とすることは明解ではあるが、自治会単位で考えると、地域の活動では、地元の小中学校の同級生、先輩後輩の関係が非常に役に立つので、岩瀬地区、新郷地区の学区の問題をそのまましておくのはどうかと思う。スクールバスを使った通学を視野に入れた場合、元々の地域の関係を改めて考えてみても良いのでないかと思う。考えた結果、現在の中学校区が良いのであればやむを得ないが、検討はしてみるべき。</p> <p>委員 街中(まちなか)の老朽化した施設と、羽生北小学校や羽生南小学校との複合化は考えられないか。教育とは直接関係ない部分になるが、公共施設の総合的な計画を考えると、この審議会だけでなく市の公共施設との連携も要すると考える。</p>
--	--	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	委員	<p>学校の再編成については、ある程度方向性が定まったら、学校の跡地利用や他の公共施設との複合化等を考えていかなければならない。学校、公共施設それぞれの方針をまとめ、それらを合流させてどうするか考えていきたい。</p>
	事務局 (教育総務課長)	<p>学区の考え方は委員の意見のとおり、改めて検討する必要がある。教育委員会の案は、決定ということを示すのではなく、審議会と一緒に考える材料として提供し、議論していきたい。</p>
	委員	<p>地域コミュニティを考えると、やはり岩瀬地区等の学区のことを考えなくてはならないと思った。将来的には義務教育学校を設置したいとのことだが、3中学校の1つでも、モデル校を実施してみたいかがか。</p>
	委員	<p>義務教育学校の設置は、いつ頃になるか。</p>
	事務局 (教育総務課長)	<p>現在の中学校校舎の建て替え時期を考慮すると、今から30年から40年後までには実施することになると考えている。</p>
	委員	<p>今後何十年後かの義務教育学校設置までの期間に既存校舎の改修工事なども必要になってくと思う。また、義務教育学校のモデル校として、1校でも先行することも考えられる。施設等に係る費用面では、どのような進め方が有利であるか。将来的に子どもたちの負担が大きくならないようにしてあげたいので、長い目で見て良い方法をとりたいという思いがある。</p>
	事務局 (教育総務課長)	<p>老朽化が進んでいるが、既に大規模改修を行った校舎もあり、既存校舎を利用することが比較的負担が少ないと考えている。費用面から、校舎の改築時期と合わせての再編成も選択肢として考なければ</p>

(3)その他	事務局 (教育総務課長)	ならないと考えている。 義務教育学校のモデル校を実施しようとする場合、現在の校舎には全児童生徒を収容できない(施設の増築、改築を要する)。今あるものを活用し、子どもたちの負担が増えないような形で進めて行きたい。
	事務局 (学校教育課長)	小中一貫校には、施設は離れているがカリキュラムを9年間貫いていくという施設分離型の形態もある。費用面を考えると、施設を新設するよりも、既存を活用していくことで、長期的な負担は減らせると考える。
	委員	学校適正規模・適正配置の基本方針は、本議事の資料を基に、素案を事務局で作成するということになるか。
	事務局 (教育総務課長)	教育委員会の考え方の案と、審議会での意見を踏まえてよく検討し、素案としてまとめたい。
	佐藤会長	議事(3)その他として、事務局から連絡事項等、委員から、その他の意見を求めた。
	事務局 (教育総務課長)	本年度の審議会は今回で最後となる。次回審議会の開催は5月以降を予定している。令和2年度末(令和3年3月)に羽生市立学校適正規模・適正配置に関する基本方針案を作成することとしており、これを目標にしつつも拙速とならないよう、慎重かつ丁寧に進めていきたい。
委員	プール施設のあり方についての答申については、廃止することによる効果として、教職員負担や、維持費改修費についてのことだけではなく、子どもた	

5 閉会	事務局 (教育総務課長) 藤間副会長	<p>ち目線においての水泳指導に充てていた時間やプール跡地の有効活用についても盛り込んでいただきたい。</p> <p>意見を踏まえ、答申案を事務局で作成し、委員にお示しする。</p> <p><副会長 閉会のことば></p> <p>第2回羽生市立学校適正規模審議会を閉会。</p>
<p>【配付資料】</p> <p>資料1 小中学校プール施設の今後のあり方について（答申の骨子案） 非公開</p> <p>資料2 羽生市立学校適正規模・適正配置の検討にあたっての協議資料 <小学校の再編成についての教育委員会の考え方（案）></p> <p>資料3 通学区域図</p>		